

11 普放無量無辺光
 12 無碍無对光炎王
 13 清淨歡喜智慧光
 14 不断難思無称光
 15 超日月光照塵刹
 16 一切群生蒙光照
 17 本願名号正定業
 18 至心信樂願為因
 19 成等覚証大涅槃
 20 必至滅度願成就
 21 如来所以興出世

あまねく、無量・無辺光、
 無碍・無对・光炎王、
 清淨・歡喜・智慧光、
 不断・難思・無称光、
 超日月光を放ちて、塵刹を照らす。
 一切の群生、光照を蒙る。
 本願の名号は正定の業なり。
 至心信樂の願を因とす。
 等覚を成り、大涅槃を証することは、
 必至滅度の願成就なり。
 如来、世に出興したまうゆえは、

勤行・学習用聖典

正信念仏偈（正信偈）

55 顕示難行陸路苦けんじ なんぎょうろくろく
56 信楽易行水道楽しんぎょう いぎょうしいどうらく
57 憶念弥陀仏本願おくねん みだぶつほんがん
58 自然即時入必定じねんそく じにゆうひつじょう
59 唯能常称如来号ゆいのうじょうしようによらいごう
60 忘報大悲弘誓恩おうほうだいひ ぐぜいおん
61 天親菩薩造論說てんじん ぼさつぞうろんせつ
62 歸命無碍光如来きみょうむ げこうにょらい
63 依修多羅顯眞実えしゆた らけんしんじつ
64 光闡横超大誓願こうせんおうちようだいせいがん
65 広由本願力回向こう ゆほんがんりきえこう

難行の陸路、苦しきことを顕示して、
易行の水道、楽しきことを信楽せしむ。
弥陀仏の本願を憶念すれば、
自然に即の時、必定に入る。
ただよく、常に如来の号を称して、
大悲弘誓の恩を報ずべし、といへり。
天親菩薩、論を造りて説かく、
無碍光如来に歸命したてまつる。
修多羅に依りて眞実を顯して、
横超の大誓願を光闡す。
広く本願力の回向に由つて、

22 唯説弥陀本願海ゆいせつ みだほんがんかい
23 五濁悪時群生海ごじよくあくじ ぐんじようかい
24 応信如来如実言おうしんにょらいによじつごん
25 能発一念喜愛心のうほついちねんき あいしん
26 不断煩惱得涅槃ふだんぼんのうとく ねはん
27 凡聖逆謗齊回入ほんじようぎやくほうさい えにゆう
28 如衆水入海一味によしゆう しにゆうかいいちみ
29 攝取心光常照護せつしゆしんこうじょうしやうご
30 已能雖破無明闇いのうすいは むみようあん
31 貪愛瞋憎之雲霧とんないしんぞう しうんむ
32 常覆眞実信心天じょう ふしんじつしんじんてん

ただ弥陀本願海を説かんとなり。
五濁悪時の群生海、
如来如実の言を信ずべし。
よく一念喜愛の心を発すれば、
煩惱を断ぜずして涅槃を得るなり。
凡聖、逆謗、ひとしく回入すれば、
衆水、海に入りて一味なるがごとし。
攝取の心光、常に照護したもう。
すでによく無明の闇を破すといへども、
貪愛・瞋憎の雲霧、
常に眞実信心の天に覆へり。

99 与^よ韋^い提^{だい}等^{とう}獲^{ぎやく}三^{さん}忍^{にん}
そくしょうほっしょうしじょうらく
100 即^{そく}証^{しょう}法^{ぽう}性^{じょう}之^の常^{じょう}樂^{らく}
げんしんこうかいいちだいきょう
101 源^{げん}信^{しん}広^{こう}開^{かい}一^{いち}代^{だい}教^{きょう}
へんきあんにようかんいっさい
102 偏^{へん}歸^き安^{あん}養^{やう}勸^{かん}一^い切^{せき}
せんぞうしゅうしんはんせんじん
103 專^{せん}雜^{ぞう}執^{しゅう}心^{しん}判^{はん}淺^{せん}深^{じん}
ほうけにどしやうべんりゆう
104 報^{ほう}化^け二^に土^ど正^{しやう}弁^{べん}立^{りゆう}
ごくじゆうあくにんゆいしやうぶつ
105 極^{ごく}重^{じゆう}惡^{あく}人^{にん}唯^{ゆい}稱^{しやう}佛^{ぶつ}
がやくざいひせつしゅうちゆう
106 我^が亦^{やく}在^{ざい}彼^ひ撮^{せつ}取^{しゅう}中^{ちゆう}
ほんのうしやうげんすいふけん
107 煩^{ほん}惱^{のう}障^{しやう}眼^{げん}雖^{すい}不^ふ見^{けん}
だいひむおけんじやうしやうが
108 大^{だい}悲^ひ無^む倦^{けん}常^{じやう}照^{しやう}我^が
ほんしげんくうみやうぶつきやう
109 本^{ほん}師^し源^{げん}空^{くう}明^{みやう}仏^{ぶつ}教^{きょう}

いだいひとさんになえ
韋提と等しく三忍を獲、
すなわち法性の常樂を証せしむ、といへり。
源信、広く一代の教を開きて、
ひとえに安養に歸して、一切を勸む。
専雜の執心、淺深を判じて、
報化二土、まさしく弁立せり。
極重の惡人は、ただ仏を稱すべし。
我また、かの撮取の中にあれども、
煩惱、眼を障えて見たてまつらずといえども、
大悲倦きことなくして、常に我を照らしたまふといへり。
本師源空は、仏教に明らかにして、

66 為^い度^ど群^{ぐん}生^{じやう}彰^{しやう}一^い心^{しん}
ぎにゆうくどくだいほうかい
67 歸^き入^{にゆう}功^く徳^{どく}大^{だい}宝^{ほう}海^{かい}
ひつぎやくにゆうだいえしゆうしゆ
68 必^{ひつ}獲^{ぎやく}入^{にゆう}大^{だい}会^え衆^{しゆう}數^{しゆ}
とくしれんげぞうせかい
69 得^{とく}至^し蓮^{れん}華^げ藏^{ぞう}世^せ界^{かい}
そくしやうしんによほっしやうじん
70 即^{そく}証^{しょう}真^{しん}如^{にょ}法^{ぽう}性^{じょう}身^{しん}
ゆうほんのうりんげんじんずう
71 遊^{ゆう}煩^{ほん}惱^{のう}林^{りん}現^{げん}神^{じん}通^{ずう}
にゆうしやうじおんじおうげ
72 入^{にゆう}生^{しやう}死^じ菌^{おん}示^じ忘^{おう}化^げ
ほんしどんらんりやうてんし
73 本^{ほん}師^し曇^{どん}鸞^{らん}梁^{りやう}天^{てん}子^し
じやうこうらんしよほさつらい
74 常^{じやう}向^{こう}鸞^{らん}処^{しよ}菩^ぼ薩^{さつ}礼^{らい}
さんぞうるしじゆじやうきやう
75 三^{さん}藏^{ぞう}流^{りゆう}支^し授^{じゆ}淨^{じやう}教^{きやう}
ほんじやうせんぎやう
76 焚^{ほん}燒^{じやう}仙^{せん}經^{ぎやう}歸^き樂^{らく}邦^{ほう}

ぐんじやうど
群生を度せんがために、一心を彰す。
功徳大宝海に歸入すれば、
必ず大会衆の數に入ることを獲。
蓮華藏世界に至ることを得れば、
すなわち真如法性の身を証せしむと。
煩悩の林に遊んで神通を現じ、
生死の菌に入りて忘化を示す、といへり。
本師曇鸞は、梁の天子、
常に鸞のところに向かひて菩薩と礼したてまつる。
三藏流支、淨教を授けしかば、
仙經を焚燒して樂邦に歸したまひき。

110 憐愍善悪凡夫人
れんみんぜんまくほんぶにん
111 真宗教証興片州
しんしゅうきょうしゅうきょうへんしゅう
112 選択本願弘悪世
せんじやくほんがんぐあくせ
113 還来生死輪転家
げんらいしじょうじりんでんげ
114 決以疑情為所止
けつちぎじょういしよし
115 速入寂靜無為樂
そくにじゅうじやくじょうむいらく
116 必以信心為能入
ひつちしんじんいのうにゅう
117 弘經大士宗師等
ぐきょうだいししゅうしとう
118 拯濟無辺極濁悪
じょうさいむへんごくじよくあく
119 道俗時衆共同心
どうぞくじしゅうぐどうしん
120 唯可信斯高僧說
ゆいかしんしこうそうせつ

善悪の凡夫人を憐愍せしむ。

真宗の教証、片州に興す。

選択本願、悪世に弘む。

生死輪転の家に還来することは、

決するに疑情をもって所止とす。

速やかに寂靜無為の樂に入ることは、

必ず信心をもつて能入とす、といえり。

弘經の大士・宗師等、

無辺の極濁悪を拯濟したまふ。

道俗時衆、共に同心に、

ただこの高僧の説を信ずべしと。

この聖典は桜蓮寺ホームページからダウンロードしたものです。

皆様のご意見ご要望により、適宜更新致しますので、最新版をダウンロードして使用してください。

桜蓮寺 URL : <http://monbou.iinaa.net/>